

豊川共生ネットみらい 10周年記念・男女共同参画推進講演会

## 上野千鶴子さん講演会

2012年4月14日

テーマ「家族持ちから人持ちへ」～支えあいのネットワークづくり～

講演会場の中ホール、満員（定員 452 人）。囲む会参加 90 人余。ご協力・ご参加、ありがとうございました。

### 講演要旨

おひとりさまの上野でございます。  
今日は、年下の男性（講演会実行委員長、中村）にナンパされて豊川に参りました。

おひとりさまは「災害弱者」です。  
おひとりさまの私に命がけで救いに来てくれるの、誰がおるやろか？

介護保険の効果は、施設入居のハードルを中流家庭の子世代に下げる効果を持った。

同居してる家族が「じいちゃんばあちゃん、悪いがちょっと出てってくれ。」と言って預けられる。

施設って誰のためのもの？

今、待機高齢者 45 万人といわれている。

誰が待ってるのか？

ご本人が待ってるのか？

ご家族が待ってるのか？

どうもご家族じゃないのか？

待機高齢者ゼロ作戦や、施設を増やすことが、本当に良いのか？

「子がいるから、（自分の老後が）安心だわ」と思っておられるかもしれない。

（スクリーンにデータを写しながら説明）

長生きしたら、皆おひとりさま。

つまり、家族がセーフティーネットにならなくなった。

「家族持ち」から家族を引き算して何も残らない人のことを「人持ち」と言いません。

私のようなおひとりさまは、家族に代わる代替ネットワークがあれば、私は心配しなくても良いはず！

と思って書いた本が、「おひとりさまの老後」

これは、みじめな負け犬おひとりさまのために作った、自助努力本。

最近、孤独死、孤立死の事件が起きる。

行政はどうしてる？・・・生活保護は自己申請。

ちょっと待って！

「助けて！」と言えない人には、手も足も出せない社会（行政）

「自分が弱い」「困った」ということを認めることは弱くない。

これを「弱さの情報公開」と「ベテルの家」では呼んでいる。

ベテルの家 = 北海道浦河町にある、精神障害等を抱えた当事者地域活動拠点 生活・働く場・ケアの共同体 居住者100名。



開場時刻前  
長蛇の列と  
なりました。



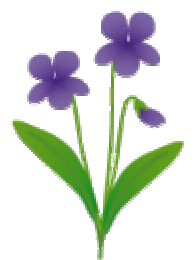


「困った」と言うことにも、スキルとマナーがある。  
私（講師）は女でよかった。  
女は沽券もないので言いやすい。  
でも必殺技がある。  
「千鶴子できない！」  
「助けて！」  
と言うスキルがある。  
能力がないことは、その人の落ち度ではない。  
能力がない人は、能力がある人をゲットする能力があればよい。  
自分がやってもらいたいことを、泣いたり、キレたりしないで、相手に嫌な思いをさせないで、相手に拒絶されないように伝える。  
これを弱者だけではなく、誰でもやればよい。  
それを伝えて人間関係を築けた縁を、「選択縁」と名づけた。  
選び合う「えにし(縁)」だから。  
「家族持ち」でない私にも、安心の絆をつくらうと思えば作れるんじゃないか？

老後の私を死ぬまで支え抜いてもらいたい。  
ケアマネ、医師、看護師、家族、信頼できる友人、民生委員、税理士、葬儀会社などのチームケアをしてもらったらどんなに安心だろう。  
それを事業モデルにするためには、、、  
年寄りのお金（自宅の土地などの財産）を年寄りが生きている間に、年寄りの幸せのために、生き金として使えば相当なことできる。  
それを邪魔するのは、子供。  
年寄りの年金にぶら下がる子供がいる。  
子供がいて私の老後が安心か？  
子供がいて私の老後のリスクになるか？  
そうすると、子がいるかどうか？が元ではなく、「どんな子に育てたか？」に関わってくる。その子とどんな親子関係をもっているか？それが安心とリスクの分かれ道。  
私の最後のメッセージ  
介護保険を、子がいてもいなくても、家族がいてもいなくても、同居人がいてもいなくても、原則、私のようなおひとりさまが一人で生きていけるような、おひとりさま仕様にしてもらいたい。



まさかの想定外でございました。  
闇夜を照らすあかりに、  
という皆さんからの  
激励だと思って頂戴します。



## 参加者の「講演の感想」(アンケートより)

- ・高齢者社会が深刻になっている中、結婚しても結局離婚や死別でおひとり様に戻ってしまう人が増えているのを知り、必ずしも結婚して安心できる生活が保障されない事実がわかった。伊豆の友だち村のような施設が、愛知県東三河にもできるとよいと思った。(30代 女)
- ・介護の姿として、子供の側から見ると、とても残酷な形と改めて感じました。地域コミュニティの崩壊に通じる問題意識を持ちました。(30代 男)
- ・大変おもしろく興味深く聴かせていただきました。(40代 女)
- ・自分もおひとりさまなので、老後のことを考えたいと思います。事例が多くてよかったです。(40代 男)
- ・豊川でやってくれて有難うございました！ダンナを誘いましたが、オレが今虐げられているのは彼女のせいだと言って来ませんでした(笑)70代と60代後半の両親は、すでに新城で聴いたそうです、でもやっぱり地元で生ウエノ様を拝見できたのが嬉しいです。(40代 女)
- ・話の中で、精神障害のベテルの家のつながりの話があり、ハッとしました。娘が統合失調を患っており、今日の話はACTのような24h体制のチームのケアが不可欠だと再確認しました。(50代 女)
- ・一人暮らしにも自信ができました。(50代 女)
- ・次第に老後が現実の問題として迫ってくるようになり、漠然と不安を感じておりました。しかし、今日のご講演で、世の中がこの方面では少しずつ良い方向に動いているように思われ、どうすべきかも示され、力づけられました。ありがとうございます。(50代 女)
- ・この先の人生、まだまだ大丈夫だな?!・・・元気をもらえました。ひとりでも何とか生きていきたいです。(50代 女)
- ・非常にゆったりとはっきり、くっきりしたお話でわかりやすかった。(50代 男)
- ・娘や息子をどんなふう育てたかの答えが自分の老後に現れるかと思うと、ちょっと怖い気がします。子どもがいるから大丈夫などと思わず、前向きに老後を、死に方を考えながら生きて行こうと思います。(50代 女)
- ・結婚しててもしてなくとも、子がいてもいなくとも、自立することが大切なのだと、よくわかりました。(60代 女)
- ・なかなか、勉強になりました。住みよい豊川市の参考になったのでは・・・特に市長さん?!(60代 女)
- ・自分の意思を家族に正確に伝えたいという気持ち、勇気が出ました。(60代 男)
- ・お話の内容の一部は『おひとりさまの老後』の本の中にあり、うなづけるものであった。ネットワークの大切さを痛感した。豊川市でも、安心して在宅で介護、死ねる状況をつくってほしい。(60代 女)
- ・著書「おひとりさま」から想像する上野さんのイメージを心地よく聴かせていただきました。近づく自身の老後を改めて考える機会になりました。(60代 女)
- ・鋭く楽しい講演でした。市長さんも聴いていてよかった。(60代 女)
- ・だれでもいずれはおひとりさま、ならば、人はどうして結婚するのでしょうか。(60代 女)
- ・家族があってよいのか無いほうがよいのか解らなくなった。40代に入った息子がいるので・・・(70代以上 女)
- ・全国各地で様々な活動がされていることに頼もしさを感じました。老後の生き方を改めて考えさせられました。大変よかったです。(不明 不明)

## 上野千鶴子さんを囲む会 15:30～16:30 発言記録

**参加者女性 A さん**：男性と同棲して別れたことがあると、上野さんの本で読んだ。どんな別れ方をしたのか、できたら教えて欲しい。

**上野さん**：いくつか男性と別れたことがあるので、どれを話せばいいのかしら。ま、恋愛してずっと思っていたことは、「誰の金で食っているんだ！」と言われたら、別れようと思っていた。

**参加者 B さん**：フェミニズムについて気になったことがある。

「女性が浪人」＝「傷もの」と言われていた時代があった。現在は、「傷もの」ではなくなった。

**上野さん**：「傷もの」ではなくなった。ということは、女性は「受難の時代」となったということだね。「男性はたくましい」という言い方をしなくなった。

ものごとを見る時は、「正しい」かどうかではなく、「事実」かどうかを考えれば良い。

**上野さん**：男性の皆さん、「かわいい」と呼ばれて嬉しい？

**参加者男性 C さん**：そう言われて違和感を持っている人が多いと思う。

**参加者男性 30代? D さん**：うれしい。ポジティブに思うこともある。

**上野さん**：「かわいい」と呼ばれることは、「あなどられる」と同じ。つまり「あんた（男性）が私の脅威にならないよ！」ということと同じ。「友達になる一歩」ということと同じ。

**上野さん**：もし相手が自分より上の立場で接して来たら、「あなたってかわいそう。」と思えばOK。

**上野さん**：男性の皆さんへ アドバイス。

女性の集まりの中で「グチ」をこぼすと、女性と友達になれるよ。

また、女性の「グチ」を聞いてあげると、その女性からもてるよ。

**上野さん**：夫婦ってなんだろう。力を抜いて過ごせるといいね。お互いにかわいいと思えるといいね。相手と張り合おうという気持ちだと難しいね。

**上野さん**：豊川市に男女共同参画推進条例が施行されたけれど、今後は自分達（市民）でやって欲しい。豊川市は幸運。今日も市長が最後まで聞いていた。今回の講演は、豊川市が後援をしただけだよね。市民団体が主催の講演会に市長が挨拶に来ている。行政が後から乗っかる形。今日、開催できたことに拍手。

**上野さん**：行政を一つほめるところがある。女性人材育成をしたのはすごい。女性を対象に海外研修を開催。その女性が横のつながりのネットワークでつながっている。同期生って財産。

**上野さん**：確かに引きこもり、貧困、自殺は男性が多いね。伊豆、東三河の地方のおひとりさまは気になる。

文化とは「その人の、ふるまいのくせ」みたいなもの。

